

多様な学びの在り方検討部会における調査・検討について

	定時制課程	新たなタイプの学校
県立高等学校将来構想審議会 で示した検討事項	従来の様な働きながら学ぶ生徒のほか、不登校や中途退学を経験した生徒、また自由度がより高い学びを求める生徒など、定時制においては多様な学習ニーズへの対応が求められている。 こうした状況に的確に対応するための教育課程や生徒の個別支援体制、また定時制で学ぶ機会を確保できる学校配置について検討する。	県立高校（全日制・定時制）において実施されている学び直しの実態を踏まえた上で、より効果的な学習方法や魅力的な取り組みなどを体系立てて学び直しの在り方を整理する。
多様な学びの在り方検討部会 における調査・検討の視点	①単位制や相談体制など学習や学校生活に困難さを抱える生徒が学びやすい環境として、どのような体制が必要か。 ②現状で地域的差異が見られる学校の配置や種別（昼間、夜間、多部制）について、学ぶ機会の確保の観点から見て最適か。 ③生徒や保護者をはじめとした外部に対して、定時制課程の特長をどのように情報発信するか。	①新たなタイプの学校はどのようなコンセプトとするか。 ・育成する生徒像 ・生徒や保護者から選ばれる魅力ある学校づくりの柱となる学習活動及び授業の在り方 ②学習や学校生活に困難さを抱える生徒であっても意欲的に学ぶことができる環境として、どのような体制が必要か。 ③課程や設置形態をどうするか。
実態調査等	<p>【調査項目】</p> <p>1 県内の学校に関する実態調査</p> <p>(1) 生徒の状況 ⇒在籍者数, 居住地, 通学手段, 就労の状況</p> <p>(2) 中学校における不登校経験者の状況</p> <p>(3) 中途退学者の状況</p> <p>(4) 学習指導の面で工夫している点</p> <p>(5) 生徒指導, 進路指導の面で工夫している点</p> <p>2 他都道府県の先進事例</p> <p>【調査方法】 実地調査, 書面</p> <p>【調査対象】 定時制高校</p>	<p>【調査項目】</p> <p>1 県内の学校に関する実態調査</p> <p>(1) 不登校経験者や中途退学者など様々な入学動機や学習歴を持つ生徒の状況</p> <p>(2) それらの生徒に対して生徒指導, 進路指導の面で工夫していること</p> <p>(3) 義務教育段階の学習内容の定着が十分でない生徒等に対する学び直しの実施状況</p> <p>(4) 学び直しをする上で習熟度や使用する教材など学習指導の面で工夫していること</p> <p>2 他都道府県の先進事例</p> <p>【調査方法】 実地調査, 書面</p> <p>【調査対象】 全日制高校, 定時制高校, 通信制高校</p>

多様な学びの在り方検討部会における調査・検討の視点に関連する第1回審議会のキーワード

	キーワード	調査・検討の視点	
		定時制課程	新たなタイプの学校
定時制に関すること	定時制の名称の変更	③	
	生徒の実態に合った定員と時間帯の設定	①, ②	
	段階的な対人トレーニング	①	
	全日制・学年制とは違う定時制での学び方のスタイル	①, ③	
両方に関すること	学びの質への問い⇒"Well Being"「個人的・社会的幸福」, 個別最適化	①	①, ②
	課程に関わらず, 生徒が自らに適した学校を並列で選べるシステム	①, ②, ③	①, ③
	不登校・中途退学経験者がやり直せる環境づくり	①	①, ②
	生徒が誇りを持って選択できる学校づくり	③	①
	従来の学校のイメージの転換	③	①
新たなタイプの学校に関すること	個別支援をベースに置いた一斉授業との組み合わせによる学習		①, ②
	従来型の学校とは違う学びや他県・本県での取り組み事例の検証		①, ②, ③
	学校間の連携		①, ②

【凡例】調査・検討の視点

定時制課程	①単位制や相談体制など学習や学校生活に困難さを抱える生徒が学びやすい環境として, どのような体制が必要か。 ②現状で地域的差異が見られる学校の配置や種別について, 学ぶ機会の確保の観点から見て最適か。 ③生徒や保護者をはじめとした外部に対して, 定時制課程の特長をどのように情報発信するか。
新たなタイプの学校	①新たなタイプの学校はどのようなコンセプトとするか。 ②学習や学校生活に困難さを抱える生徒が学びやすい環境として, どのような体制が必要か。 ③課程や設置形態をどうするか。